

野生司香雪とサールナーートの仏伝壁画 フォーラム

2019年10月31日（木） インド大使館VCCにて

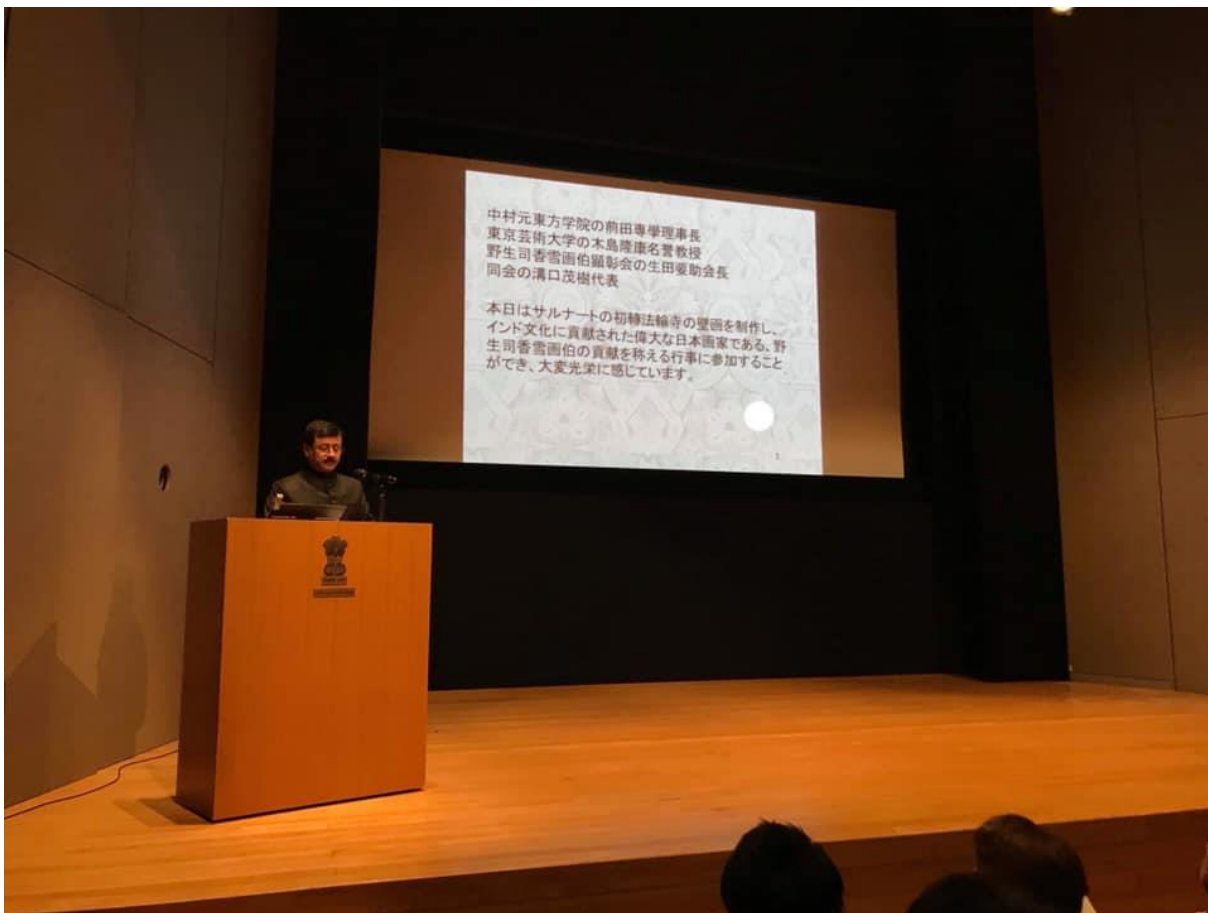


主催者「野生司香雪画伯顕彰会」からのメッセージ

2500年ほど前にインドで興った仏教は、発祥の地インドで衰退しつつあった飛鳥時代（6世紀中期）に、百済を經由して日本に伝えられました。その後、現代に至るまで日本が仏教から享受し続けた恩恵は計り知れないものがあります。明治時代から日本人仏教者と交流のあったセイロン生まれのダルマパーラ居士によって始められたインドにおける仏教再興運動の中で、ガンジス川の古都ワラーナシ近郊の**初転法輪の聖地、サールナート**にムーラガンダ・クティ・ビハーラ（**初転法輪時**）が建立されました。建立されたばかりの寺院に壁画を描いてほしいとの依頼が日本に伝えられ、派遣された**野生司香雪は足掛け5年の歳月をかけ1936年に縦4メートル、長さ44メートルの仏伝壁画を完成させました。なぜ日本人画家がこの時代にインドで「釈迦一代記」の壁画を描くことになったのか、**このフォーラムでは歴史の波間に忘れ去られようとしている日印文化交流の一隅に光を当てていただこうと思います。

この壁画は世界中から訪れる仏教徒や観光客に、お釈迦様の生涯を分かり易く語りかけ感動をもたらしています。今ではアジャンタの石窟寺院の壁画とともにサールナートの仏伝壁画として広く知られるようになりましたが、完成後80年以上経過した現在、壁画に剥離が生じるなど補修手当をする時期を迎えています。何世紀にも亘りインドから受けた恩に報いようと精進・献身した画家・香雪と彼を支えた当時の日本人の思いを受け継ぎ、今般、東京藝術大学および故平山郁夫先生ゆかりの(公財)文化財保護・芸術研究助成財団の協力を得て、また(公財)仏教伝道協会はじめ関係機関の支援・後援により壁画保全事業が始まろうとしています。今回のフォーラムでは、**これから3年の歳月をかけて進める保全計画についてもご報告いたします。**

(太字強調：DICによる)



開会ご挨拶
サンジェイ・クマール・ヴァルマ
駐日インド大使閣下



開会ご挨拶
前田専學 東京大学名誉教授
中村元東方研究所理事長



大木礼子 さくら市ミュージアム
荒井寛方記念館学芸員
『タゴール・天心から香雪までの
日印芸術家交流』



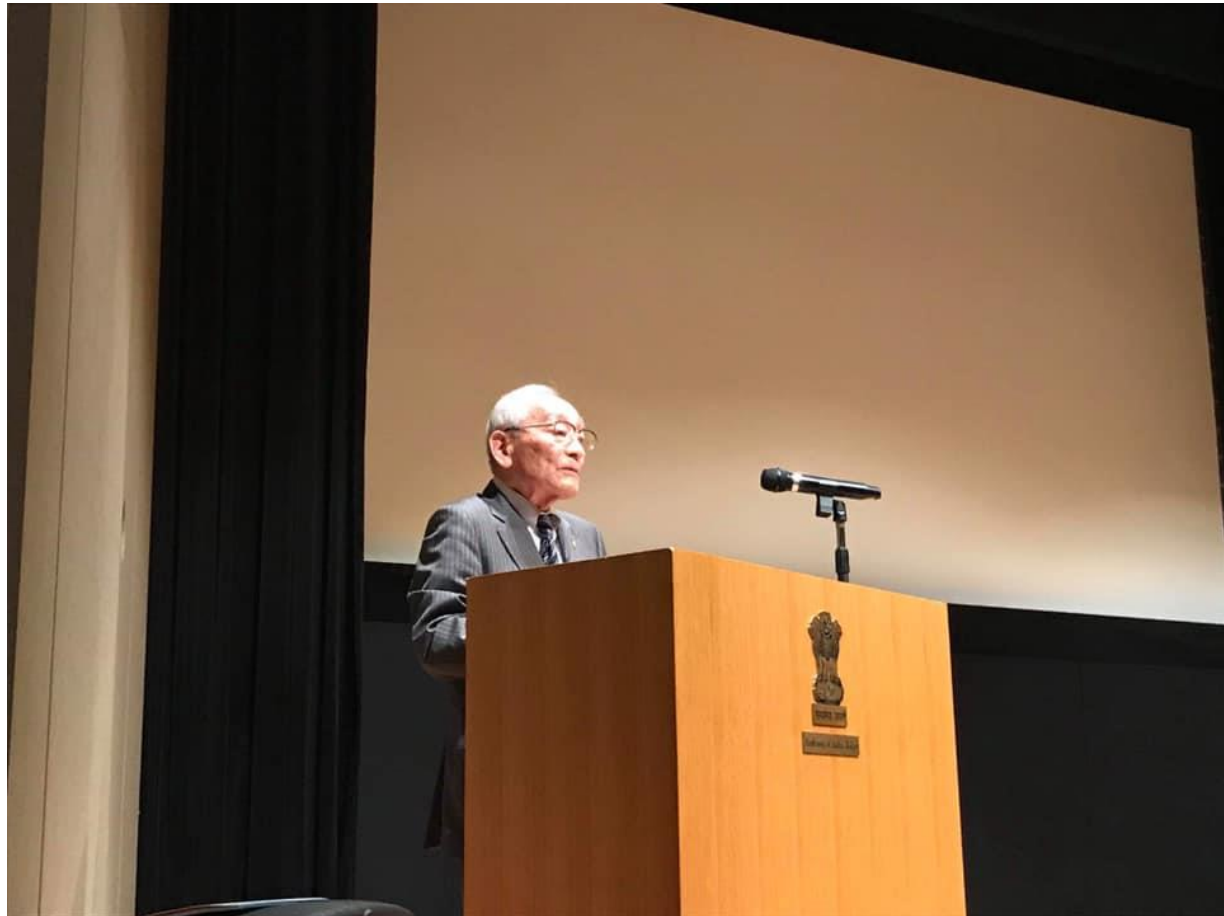
溝渕茂樹
元徳島文理大学 非常勤講師
『野生司香雪の生涯と伝伝壁画』



シッダールト・シン博士
インド大使館VCC所長
元バナーラス・ヒンドゥー大学
教養学部パーリ語・仏教学科長
『初転法輪の地 サールナートと香雪の
仏伝壁画がインドで果たす役割』



木島隆康 東京芸術大学名誉教授
『インド・サールナートの仏伝壁画
保全作業について』



閉会挨拶
生田要助
野生司香雪画伯顕彰会 会長



総合司会



受付



ホール入口（ホワイエ）にて
香雪肖像とともに



ホール入口
（ホワイエ）にて
書籍の閲覧コーナー